

本章では、前章の酒田市中長期観光戦略（新酒田物語）を受けて、オリジナル・ストーリーを具現化するためのサブ・ストーリーの具体的な展開方法等について記述し、さらには実現に向けた観光推進体制の構築や観光プロモーションの展開、観光の推進に関する環境整備について明示している。

### （1）サブ・ストーリーごとの観光施策の展開

#### ① 歴史・伝統の活用【サブ・ストーリー①】

##### ～ 交易で栄えた豪商と雅な文化の融合 ～

##### <豪商の面影を残す歴史的資源>

酒田は北前船や最上川舟運による交易で栄えた商都であり、今なお豪商の面影を残す本間家旧本邸や旧鑑屋など歴史的資源が現存している。

##### <京都からもたらされた雅な生活文化>

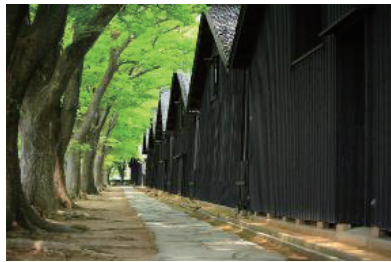
これらの豪商は北前船で栄華を極め、北前船の往来で賑わった港町酒田にもたらされた京の文化は、長い時代の流れの中で育まれ、酒田の伝統文化として成熟・継承されてきた。

北前船の歴史や文化を残す様々な建物や資源は、従来より観光資源として活用してきた。しかし、これらの歴史・文化的な資源を観光資源としてさらに活用するためには、従来のような活用方法だけでなく、新たな視点をもって戦略的に活用しなければならない。

#### ◆ オリジナル・ストーリーとの関連

酒田の歴史はまさに“交易”の歴史である。酒田の街なかには“交易”に関連する貴重な歴史的資源が数多く残っており、歴史や文化の地域資源を活用した観光開発はすでに進んできているところである。

今後は、街なかの回遊を促進するために、情報発信機能や街なかガイド機能の強化、観光ルートの整備が重要である。



【山居倉庫】



【日本三大つるし飾り 傘福】



【さしこ】



【旧燈屋】



【雛人形】



【相馬樓の酒田舞娘】

## ◆ 施策例

### ● さかた歳時記

酒田の歴史や伝統と食文化、祭りなどを関連付けた情報を提供する。情報を一元化することによって酒田の観光が一覧でき、来訪目的や来訪時期について動機づけを行う。多くのイベントや祭り情報と、歴史や食文化を連動させることによって、酒田の魅力を発信する。

### ● 酒田独自の祭りやイベントの活用

酒田市には 400 年以上の歴史を誇る「酒田まつり」や「中型イカ釣り船団出港式」など地域に根付いた特徴的で魅力的な祭りやイベントが多数開催されているものの、どれも市民や関係者向けとなっていることから、今後は、来訪者も参加・体験できるものへと転換していく。

### ● 北前船寄港地ネットワークを活用したイベント開催

酒田の発展を支えた、北前船の寄港地同士の連携を活用したツアーなど、様々なイベントを開催するとともに、酒田市も中心自治体の一つとして北前船寄港地を日本遺産に認定する取り組みを進めていく。

### ● 外国人観光客の誘致

外国人観光客の誘致に向け、酒田市の歴史や文化資源を巡るモニターツアーや海外教育旅行、外航クルーズ船の誘致に取り組む。

### ● 回遊性を高める観光ルートの創設

観光客誘致を目的に、市内の回遊性を高めるとともに、周辺地域との連携による広域観光ルートを造成する。

---

### ●伝統工芸の保存と活用

伝統工芸品、民芸品は伝統と歴史ある観光資源の一つである。伝統の保存と後継者育成につながるような展示、プロモーションや、見学、体験ツアーに取り組む。

### ●街あるき観光の推進

湊町酒田の歴史、文化、生活をコンパクトに体験できる街あるき観光を推進し、酒田大獅子を巡る、社寺を巡るなどのテーマを持ったコースを提案するなど、観光客の市内回遊性を高める。また、市内の回遊には臨港線の活用など、移動自体が楽しめるような仕組みづくりについて検討も進める。

### ●山居倉庫を守る「ケヤキ」の保全活用

今から 150 年ほど前に、山居倉庫を日差しや暴風から守るために植林されたケヤキも今や立派な並木へと成長し、酒田のシンボルとして多くの観光客が訪れている。酒田のシンボルとなるケヤキ並木が、今後 100 年、200 年と樹勢を保つため、積極的な保全活用を展開していく。

## ② 食・食文化の活用【サブ・ストーリー②】

### ～ 豊かな食材を使った“おもてなしの食文化” ～

#### <地形・地勢から見た庄内地域の食の特徴>

鳥海山と出羽三山に抱かれる庄内平野は、夏と冬の気温差が 40 度近くにもなる独特の気候や、最上川・赤川の恵みによって、季節ごとの多彩かつ味わい深い食材に恵まれている。特に農産物では、昔ながらの在来作物が数多く残り、特徴的な食材として今なお食されていることもこの地域の特色の一つである。

#### <北前船交易と酒田の食・食文化>

北前船によって酒田が大坂と直結したことで、酒田からは「庄内米」や、一級品として名を馳せた「紅花」などが上方向けに運ばれ、酒田には上方の文化がもたらされた。特に、京の食や食文化は、今なお酒田の色濃く根付いている。

#### <庄内の米と湧水から生まれる酒田の酒>

今や海外からも注目されている日本の米。当地域の「庄内米」は、国内トップクラスの等級を誇り、全国ブランドともなっている。

また、酒田市内には 7 つもの酒蔵が存在する。質の良い米ときれいな水に恵まれ、それぞれの蔵人のこだわりにより造り続けられている日本酒の味は格別で、食資源の中でも重要な位置を占めている。

### ＜酒田のフレンチ＞

一方、多くの食材や農産物等を活かした調理手法についても固有の資源が存在している。その一つがフレンチであり、「櫂」（1968年～）や「ル・ポットフー」（1973年～）など酒田を代表するフランス料理店が生まれ、東京・大阪などからグルメツアーが組まれるほどであった。これら伝説のレストランは現在でも存在し、その流れを受け継いだ料理人たちが「酒田フレンチ」として磨き上げている。

### ＜豊かな食文化＞

酒田には、料亭文化（上方から伝わった食文化）やフレンチ以外にも、豊富な海産物を素材とした寿司やラーメンなど地域性のあるメニューをバラエティー豊かに取り揃えて、幅の広い「食」が提供される地域である。地域の食は旅行目的の一つとなるため、当地の季節ごとの豊かな食文化をアピールして観光客の誘致に取り込む。

### ◆ オリジナル・ストーリーとの関連

酒田市を中心とする庄内地域の固有の自然食材や食文化を、北前船交易や最上川舟運の歴史性と関連させ、サブ・ストーリーとしての展開を図る。



【酒田柳小路屋台村「北前横丁」】



【岩ガキ】



【刈屋梨】



【酒田の地酒】



【酒田のラーメン】



【酒田フレンチ】

---

## ◆ 施策例

### ●北前船によってもたらされた食文化の提供

北前船舟運によって酒田にもたらされた上方の食文化は今も色濃く残り、酒田の食として根付いている。これらの食文化と酒田独自の食材を融合させた、北前船を名前にからめた食を開発していく。

### ●酒田・庄内の食を活用したイベントの開催

酒田・庄内の食を一堂に集めた食のフェスタなど、様々な調理方法で料理された「庄内の食」に関するイベントや、酒田・庄内の食材を活用した料理コンテストなど、酒田・庄内の食にこだわったイベントを開催する。

### ●外国人モニターツアーの開催

外国人に庄内の食材や料理の魅力を認識・発信してもらうため、酒田の食や食文化を体験するモニターツアーを実施する。

### ●「庄内米」を体感できるプログラムの造成

鳥海山の恵みによってもたらされる日本有数の米、「庄内米」の田植えや稲刈り等が体験できるプログラムを造成し、子どもや教育旅行向けに提供するとともに、米作り体験（田植えから稲刈りまでの行程を体験する）プログラムの造成や、田んぼのオーナー性導入などにより、参加者が繰り返し当地を訪れる仕組みづくりを進める。

### ●フレンチに合う日本酒の提供

近年、海外では日本酒がブームとなっており、フランス料理にも合うと言われている。これを機会に“酒田の酒”と“酒田フレンチ”の2つの要素を結び付けるものとして“酒田フレンチに合う酒田の地酒”を、市内のフレンチ・レストランで提供する。

### ●日本酒の試飲スペースの設置

酒田市内には7つの酒蔵があり、各々が個性ある日本酒を製造している。この7つの酒蔵が一堂に会し、各酒蔵自慢のお酒が試飲でき、気に入った酒を購入できる施設の整備を検討する。

## ③ 自然景観の活用【サブ・ストーリー③】

### ～ 壮大な鳥海山と最上川・飛島の独自の自然環境 ～

#### <酒田市の自然景観の特徴>

酒田市には鳥海山や日本海、最上川や庄内平野、庄内砂丘、クロマツ林などの雄大な自然景観や、山居倉庫をはじめとする歴史的、文化的な景観が多数存在する。市では市民から推薦された「美しい酒田の景観～30景～」を選定しており、酒田の素晴らしい自然景観を再認識できるものとなっている。